



研  
編の  
う9  
報告  
ては  
につ

3.1  
7.1  
8.1  
12.1

平  
から  
た再  
専門  
で論  
て、現  
なお、  
記載  
遺憾

平  
らの  
施な  
を外  
川崎  
が提  
でき

1. 平成17年12月  
果の報告を、12月
2. 上記論文12月  
比良教授より提出さ
3. 平成17年12月  
早急に行い、遅く  
を提出するよう依  
実験の実験計画書
4. 上記論文7月  
7年10月14日
5. 同上再実験の  
出された。(添付)
6. 平成17年12月  
材料、川崎助手研  
これらの実験材料  
ノート記載の実験
7. 平成17年12月  
菌などの再実験用  
トコルを平成17
8. 平成17年12月  
回目の実験結果(12月)  
子の5'側断片クロ  
したDNA断片の塩基  
ラスミド上のhDi
9. 平成17年12月
10. 平成17年12月  
果および須山氏に  
ピーを上記の外部
11. 平成18年1月
12. 平成18年1月  
比良教授から提出  
査結果報告書(添  
実験結果が再現で  
中に示された実験

## 再実

多比良教授か

- (1) 川崎助  
たプラ
- (2) 川崎助  
現に成
- (3) 川崎助  
験を依  
ターベ  
主大腸  
発現し
- (4) 研究員  
が、現  
る E-cad  
文 1 2  
功した  
の再実  
のもの
- (5) 論文 3  
抗 Hes1  
る ELI  
ELISA  
ットの  
Biotech  
行う。
- (6) 論文 8  
イムラ  
見され  
しかし  
築を含  
の期間

以上の多比良  
では未だ再実  
段階で得られ

多

hDico  
験材  
なる  
再実  
子5  
子5  
ら供  
遺伝  
pp. 1  
しな  
会宛  
(30  
と、ま  
のRo  
pp. 1  
れな  
以  
段階

添付

1. 再
2. 月
3. 再